

学 校 教 育 目 標	温かい学校 喜びあふれる学校
目 指 す 学 校 像	潤いと活気と感動のあふれる学校を目指して
重 点 目 標	1 主体的に活動し知性と創造性を高める生徒の具現化 2 学びの自律と個別最適化の実現 3 保護者や地域から信頼される学校づくりの推進 4 学校運営に係る適正な施設管理と公金管理 5 キャリアステージに応じた資質能力の向上とバランスの取れたワークライフマネジメント

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価	
年 度 目 標							実施日令和8年3月2日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	○全国学力・学習状況調査の教科別調査において全国、市平均と比べ下回っている。 ○市の調査による「授業でのPC・タブレットなどのICT機器の活用状況」が市平均より低い。 ○授業に真剣に取り組む生徒は多い。反面、授業内の発言等は消極的な場面がみられる。 ●基礎的・基本的な知識技能の向上を図る必要がある。 ●学力の定着や個人差が大きい。 ●放課後学習会等で個に応じた課題克服の場を設定する必要がある。	・情報端末を活用した主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善	①情報端末の活用した授業改善のための講師を招いて研修会を実施する。 ②教科会を通して情報端末を利用した授業実践に向けて研究を進め、研究授業を行う。 ③管理職が授業参観し、指導助言する。	①外部講師を招聘し、年間2回以上の研修会を実施することができたか。 ②教科会を通して研究を進め、研究授業を行うことができたか。 ③学びの指標アンケートによる「主体的な学び」「探究的な学び」「ICTの活用」の項目が向上したか。	・情報端末を活用した授業に向けた研修を含め、外部から講師を招き2回校内研修を実施した。 ・教科ごとに「主体的・対話的で深い学び」について研究を進め、全ての教科において研究授業を行った。 ・学びの指標の「主体的・対話的な深い学び」や「ICTの活用」の項目が、昨年度比に対して微増に留まっているため、今まで以上に「教員による教科をまたいだ相互授業見学」や「効果的なICTの活用法のための講師の招聘等」を行う必要がある。	A	・3月中に生徒用の端末がiPadへ移行し、9月には教職員用端末も新機種に移行するため、より効果的な活用法について、積極的に研修を行う必要がある。 ・学びの指標の「主体的・対話的な深い学び」や「ICTの活用」の項目が、昨年度比に対して微増に留まっているため、今まで以上に「教員による教科をまたいだ相互授業見学」や「効果的なICTの活用法のための講師の招聘等」を行う必要がある。	・積極的にICT活用した授業の実践ができていることがアンケートから分かった。個別最適な学びという視点においてこのICTの有効活用が後押ししてくれると思う。 ・社会全体の推進が求められるあらゆる分野でのDXであるが、最大の課題である人材育成において、「高校が変わる」「中学が続く」流れの中でシステムシートにDXの表現がなかった。DX社会が必要とする人材育成のためにもカリマネを積極的に進めていくべきである。
		・個別最適な学びの実践	①StudyDrive、ドリルバー、ミラソード、Canva等の活用場を増やし、それぞれの課題に応じた学びを展開する。 ②カリマネデザインマップを活用し、教科横断的な視点を持ち、授業をデザインする。	①授業でのPC、タブレットなどの活用状況が向上したか。 ②カリマネデザインマップを活用し、教科横断的な視点を持って授業をデザインすることができたか。	・教職員評価「ICT機器を効果的に活用できたか」は95.4%（昨年度90.9%）であった。 ・定期テスト前に放課後学習会を実施することができた。 ・生徒アンケート「進んで学習に取り組んでいますか」への肯定的評価は、96%（昨年度91%）であった。 ・カリマネデザインマップを作成し、数学と理科、G・Sや国語と社会等、教科横断的な授業を行うことができた。	A	・デジタルとアナログのそれぞれの良いところを考慮した授業実践を研究し、生徒一人ひとりに合った指導が行えるようにする必要がある。 ・カリマネデザインマップの活用について、今年度行った教科横断的な授業以外の教育実践について研究・実践していく。	
2	○学校評価生徒アンケート「充実した学校生活を送っていますか」のA評価は57%であった。 ○学校評価生徒アンケート「先生方は悩みや相談に乗ってくれますか」の肯定的評価は98%であった。 ○日常の観察、定期的なアンケートの活用等によって早期発見、情報共有ができ、組織的な対応ができている。 ●スクールダッシュボードを有効活用し、生徒1人ひとりの状況をより的確に把握し適切な対応ができるようにする必要がある。	・生徒の主体的な活動を通した常態的・先行的な生徒指導の実践	①生徒が達成感や成就感を得られる生徒主体の生徒会活動、学校行事、(体育祭、校外学習、修学旅行、芸術祭)を実施する。 ②生活のきまり検討委員会を中心とした、当事者意識を持って取り組む生活のきまりの見直しを行う。	①学校評価生徒アンケート「充実した学校生活を送っていますか」のA評価が前年度以上となったか。 ②主体的に自身の生活について関心を持つことができたか。「学校の規則」に関する学校評価生徒アンケートのA評価が前年度以上となったか。	・生徒会活動・学校行事で生徒主体の活動ができている。「アームレスリング大会」「ピンクシャツ運動」などを行った。 ・生徒アンケートの「充実した学校生活を送っていますか」のA評価は59%（昨年度57%）であった。 ・「学校の規則を守っていますか」へのA評価は、74%（昨年度71%）であった。	A	・生徒主体の活動がこの2年間で学校生活の充実につながっているため、新たな活動も含めて検討し、継続していきたい。 ・年度末に実施した臨時生徒総会において生徒会活動の充実を図るために組織の改編を行い、効率よく活動ができるよう、ボランティア委員会と安全委員会がなくなるため、活動内容の精選や改善が必要となってくる。	・生徒に細やかに寄り添う体制がしっかりとできている。支援も組織的に行うことで安心・安全につながっていると思った。 ・いじめについては、学校は早い対応をしていると思う。 ・子どもと親の学校評価についての評価にずれが生じているところがあるので、授業参観の機会を増やすなど親子での意識のずれをなくす必要があると思う。
		・細やかな教育支援・教育相談に向けた校内体制の充実	①生徒の変化にいち早く気付くため、毎日の登校、健康観察の実施とおはようメーターの活用を行う。 ②生徒指導・教育相談委員会の情報共有、保健室からの生徒に関する状況の確認を素早く行えるように校務用端末やTeamsのチャットを有効利用する。	①日々の生徒の変化を見逃さず、声掛け・面談の実施につなげることができたか。 ②学校評価生徒アンケートの「先生方は悩みや相談にのってくれますか」のA評価が前年度以上となったか。	・登下校時のあいさつ運動などを含め、日々の生徒の変化を見逃さず、声掛け・面談の実施につなげることができた。 ・夏季休業明けすぐに二者面談を実施し、生徒の変化に素早く対応することができた。 ・先生方は悩みや相談にのってくれますか」のA評価は、68%（昨年度70%）であった。	B	・おはようメーターについて、年度当初に比べ活用率は全体で80%程度まで上がってきたが、残り20%の中に状況を知りたい生徒がいるため、100%を目指して働きかけていく必要がある。 ・「先生方は悩みや相談にのってくれますか」のA評価は-2%で微減となったが、肯定的評価としては、3年連続で97%以上と高い数字が出ているため、より多くの教職員が同じ気持ちで取り組んでいけるよう継続していきたい。	
3	○学校運営協議会において「生徒に身につけさせたい力」「柏陽中学校の現状について」のテーマについて熟議を行っている。 ○地域の方々に登下校のバトロールや見守りを継続して行っていたいである。地域の子どものために、温かく尽力していただいている。 ●学校運営協議会の場で、目指す生徒像や身につけさせたい力について熟議し、その実現に向けて学校・家庭・地域の協働を図る。 ●地域ボランティアやイベントに生徒が主体的に参加できるように促す。	・目指す生徒の育成に向けた学校・家庭・地域が協働で行う取組の整理と実施	①学校運営協議会を年3回実施し、目指す生徒像について熟議し、その実現に向けての取組を整理・実施する。 ②地域のボランティア活動や本校と関連する場所に出向き、様々な取組を行うことで地域に貢献する	①年間3回の学校運営協議会を開催し、目指す生徒の育成に向けた取り組みを行うことができたか。 ②地域に出向いてボランティア活動等に参加することができたか（年間延べ5回以上）。	・年間3回の学校運営協議会を実施することができた。「学校や地域に愛着を持つ子どもを育てること」について熟議を行った。 ・地域運動会や、お祭り、芋ほり、小学校へのあいさつ運動など延べ11回、地域のボランティアに参加することができた。 ・自主的に地域に出向き、貢献しようとする生徒が増えてきている。	A	・学校・地域・家庭がさらに協力し合い、地域の中で生徒たちを育成していける取組を行っていく。 ・次年度は生徒会組織改編でボランティア委員会がなくなるため、生徒会や教職員から地域のボランティア活動の参加を呼び掛けて、参加者を維持できるようにする。	・人と人との触れ合いが、デジタルではないリアルな面で子どもたちにとってとても大切なものになってくるので、PTAとして柏陽祭等のイベントで、子どもたちがのびのびと活躍できる場や企画、発表できる場面を設けられれば良かったと感じた。 ・地域の行事・運動会・防災訓練・まつりなどに地元に住む中学生の参加が望まれる。高齢化が進んでいるため、中学生の力で地域の活性化につなげてほしい。
		・積極的な情報の収集と発信を通した開かれた学校づくり	①学校ホームページの定期的な更新と毎月の便りの発行等により学校の情報を広く公開する。 ②情報公開や情報発信のため、毎学期2回以上保護者の来校機会を設ける。	①学校評価保護者アンケートにおける情報発信に係るA評価が昨年度以上となったか。 ②毎学期2回以上の保護者来校の機会を設定することができたか。	・学校ホームページの更新を平均して月3回行うことができた。 ・学校教科保護者アンケートの情報発信に係る項目のA評価は、25%（昨年度19%）であった。 ・学校公開週間を設けるなど、毎学期2回以上の保護者来校の機会を設定することができた。	A	・学校だよりと学校ホームページ以外に、学校からの情報発信の手段として今年度からスクリーンによる通知が加わったことで評価の向上につながったと思われるため、継続して行っていく。 ・学校評価等の結果から行事の改善を行い、より開かれた学校づくりを推進する。	
4	○体育の水泳授業で、プールの利用において民間に委託することで、熱中症等の心配もなく安心安全な教育活動が行うことができている。 ○さいたま市の部活動地域展開モデル校の3年目で、土、日の活動について、生徒、教員にとってより望ましい形に向けて検証を行っている。 ●樹木伐採、剪定等が優先順や予算等の関係もあり思うように進まない面もある。 ●施設設備や、情報管理等の安全管理について教職員との情報共有を行いながら進めていく体制づくりが必要である。	・安心・安全な教育環境の整備	①経年劣化等による施設等への素早い修繕と月例安全点検を実施する。 ②日常の保健衛生、給食等における安全管理を徹底し、重大事故未然防止に努め、危機管理体制を整える。	①定期点検や日々の安全点検を行い、早期対応に努め、未然防止につなげることができたか。 ②生徒のけがの件数を昨年度より減少させられたか。	・毎月各担当が安全点検を行い、修繕が必要な箇所について優先順位を考えて早期対応につなげることができた。 ・けがの件数は、昨年度の総数が214件に対し、今年度は184件で、それぞれの学年が全て減少した。 ・給食においても安全管理が徹底されており、事故なく安全安心に提供することができた。	A	・予算の関係で、修繕が必要であっても対応できない箇所があるため、引き続き事務や運営委員会、職員会議を通して、優先順位を考え早期対応に努める。 ・けが防止については、保健委員会・生徒指導委員会・体育科等で検討し更なる減少を目指す。	・中学生は部活動や体育の授業などとても活発に活動するので、ある程度のけがは付き物です。従って、施設によるけがをなくするような取組や、結果として大きなけがが少なくなったり、体育的な活動を活発に行っていく中で、事前にけがのリスクをなくすような指導や、緊急時の迅速かつ適切な対応がなされていればよいと思います。具体的に、「組織的に検討し更なる減少を目指す」とあるので素晴らしいと思う。
		・ICT機器を利用した安全管理と早期対応	①教職員がTeamsチャットによる生徒の欠席、体調不良、遅刻、早退等の状況確認と保護者連絡の徹底。 ②上記以外で保健室来室者やSolaる一む利用の生徒に関する情報を、Teamsチャット等で把握し早期対応を行う。	①遅刻、早退、欠席者に対する保護者連絡を徹底することができたか。 ②保健室に相談に来た生徒や、教室に入りづらい生徒等に対し、情報共有と早期対応ができたか。	・遅刻・早退・欠席に関する情報についてteamsのチャット機能を利用しながら迅速な情報交換を行い、保護者への連絡を徹底することができた。 ・保健室来室生徒の状況やSolaる一む利用生徒がいる場合の情報共有も同様にteamsのチャット機能等を利用して行い、早期対応に繋げることができた。	A	・ICTを利用した連絡方法を取り入れたことで、教職員の把握やその後の保護者への連絡等がとてもスムーズに行えたので引き続き継続していく。 ・教室に入りづらい生徒等がSolaる一むの活用について、今まで以上に利用しやすくなるように、人員配置の工夫や環境改善を行う。	
5	○タブレット等のICT機器の活用について講師を招聘して研修を行い、少しずつ効果的な活用に結びついてきている。 ○管理職による面談時等でそれぞれの教職員の実情に合った研修の受講奨励し、研修ができるようになってきている。 ●生徒（保護者）と教職員双方のWell-beingにつなげるために、業務内容の削減すべきところと意欲や能力を高めるために残すことが必要な部分についての検討が行われるべきである。	・教職員の資質向上のための研修への取組	①学校DX推進部を中心にICT機器の活用に関する研修をさらに推進し、業務改善につなげる。 ②キャリア段階に応じた研修、新たな資質向上に関する研修の受講奨励を行う。	①ICTを活用した授業実践と研修を通して生徒一人ひとりの学習進度や興味関心に応じた学びの場を創出できたか。 ②キャリア段階に応じた研修、新たな資質向上に関する研修の受講ができたか。	・授業でICTを活発に利用できるようにするために外部から講師を招聘して校内研修を行った。また、教職員それぞれが、研修目標としてICT機器の活用を挙げ、夏季休業中などに研修を進めている。 ・生徒のより良い学びに向けた研究授業を実施し、指導主事等を交えた研究協議を行った。 ・個に応じた支援を実践するためのICTサポーターによる研修会を2回実施することができた。	B	・校内において、教科を越えた授業参観を行い、カリキュラムマネジメントの視点から更なる授業力の向上を図る。 ・面談等を通して、教職員それぞれの資質向上に向けて、市内外の研究発表を行っている学校等の研修の受講奨励を継続して行う。	・スキル向上への学校としての取組、そして先生方一人ひとりの自己研鑽が素晴らしいと思った。 ・働き方改革の中に少人数規模で、先生方の研修や休暇を取られた先生の調整等大変な面もあるが、学校全体で対応していく体制を充実させてほしい。 ・小中の連携をさらに深めることによって、研修の推進が図れたらよいと思った。
		・Well-beingにつながる働き方改革	①業務に大きな差が生じないようにする学校全体での体制づくり。 ②会議や教職員それぞれの業務を精選し、業務改善に取り組み働き方改革を推進する。	①業務に大きな差が生じないような体制づくりができたか。 ②自分に適した業務改善に積極的に取り組み、目標達成の実感につなげられたか。	・子育て世代の教職員が増えてきているため、それを考慮した上での体制づくりに苦労した。 ・各教職員と、年度当初に自分に合った働き方改革の業務改善の方法・手段を面談で確認し、達成状況面談において、概ね目標達成を実感できていることを確認することができた。	A	・教職員の入れ替わりもあるため、生徒（保護者）と教職員双方のWell-beingに向けて、業務内容の削減すべきところと意欲や能力を高めるために残すことが必要な部分について引きつづき検討する。 ・自己評価シート等を活用して教職員それぞれのマネジメント力を高める。	

